

令和3年度 第1回市立小諸図書館協議会 議事録

日時 令和3年7月1日（木）午後2時30分～午後4時10分

場所 市立小諸図書館 ひだまりのひろば

出席者

〈 委員 〉

土屋政紀会長 森山いさ子副会長 田中豊委員 市川強委員 蓬田美智子委員
大池幸子委員

〈 小諸市教育委員会 〉

小林秀夫教育長 富岡昭吾教育次長 小山輝之文化財・生涯学習課係長
土屋千浩文化財・生涯学習課主事

〈 市立小諸図書館 〉

大池孝志館長 運営一部業務受託者特定非営利活動法人本途人舎業務責任者大林晃美
特定非営利活動法人本途人舎業務副責任者井出明子

1. 開会

2. あいさつ

土屋会長あいさつ

短い時間ですが、充実した議論ができますように、よろしく申し上げます。

教育長あいさつ

日頃から図書館に対し、ご指導いただきありがとうございます。『ふるさと遺産集』91ページに「小諸の文化を支えてきた市立小諸図書館」として取り上げられています。どの遺産も、現在の「小諸」を形作るうえで重要な役割を果たし、歴史を作ってきたものが認定されています。図書館はまさに、小諸の文化を高めてきた場所ということで、認定されています。小諸義塾に図書館が出来たころは、「本」というのは本当に貴重なものでした。そんな時に、持ち寄って「共有の知の財産」にしようじゃないか、とスタートし、地道に基礎から作り上げられてきた図書館だと思います。そのことによって、今の小諸の文化、歴史があるのではないかと考えています。今この場所にある図書館は、多くの方に指示されて期待もされている。これから先のことを考えると、今のいい状態をそのまま保持するだけだと時代は変化していきます。やや時代の先を見ながら、「図書館とはなにか」どういう役目があって、図書館はどうあるべきかということで、まさにここにいらっしゃる委員の皆さま方にお知恵をいただいて、先を読みながら歩いていくことが大事ではないかと思っています。そういう意味で委員の皆様には特に（5）の図書館運営についての意見交換の場で大いにご意見をいただければと思います。

3. 自己紹介

図書館協議委員

小諸市教育委員会

一部運營業務受託者 本途人舎職員

4. 協議事項（議事進行 土屋会長）

（1）図書館協議会について

大池館長より説明 【資料1】

（2）令和2年度図書館事業実施状況 【資料2】

（3）令和2年度図書館利用状況について（大林） 【資料3】

大林より（2）（3）続けて説明

会長：厳しい状況の中でも、いろいろ工夫をして、いろいろな所と連携しているのがわかります。

田中：13ページのリサイクル本市は中止になったようですが、その本はどうになりましたか？繰り越して今年度にするのか、廃棄してしまったのか？

大林：今書庫にあります。今年度開催をしてみなさんに還元したいと思います。

森山：10ページの「問題利用者のトラブル」とはどういう感じですか？

大林：昨年度問題があったのは、利用者同士でトラブルになるケースです。警察に入ってもらったことがありましたので、出来る限り事前に防ぐ方法はないかということでチームを組んで対策をたてるようにしてきました。

会長：カウンターでいろいろなお客さん対応に難儀している姿を何度も見ました。そういう利用者もいるということですね。

大池：実利用者が少ない、と言うことですが、私が引越して、市役所の窓口で転入届をするとき「図書館もありますよ」という案内は、今までしたことはあるのでしょうか？私も図書館がここにあるということを知ったのが、自分の息子が先に図書館を利用して「図書館あるよ」と聞いてからなので、小諸に引越ししてきたときに図書館が市役所の隣にあることがわかるといいかなと思いました。

館長：ありがとうございます。市でもいろいろな施設を紹介したいと思っています。転入の届け出のときは手続きで回る部署が多いため、手続きのご案内を優先させていただいております。転入者に紹介したい施設は図書館、美術館もありますし、藤村記念館もあるということで、窓口で全部紹介するのは限界があります。そのかわり小諸市の施設や手続きなどを紹介している冊子をお渡ししています。何かの機会があるたびに図書館をPRしたり、広報こもろにはかならず1ページ図書館の紹介や本の紹介をしています。

森山：広報こもろは住民票が小諸にあれば全戸配布ですか？

館長：基本的に区に入っていない人には届いてないと思います。

会長：市役所の窓口でも配布しています。

大林：図書館でも置いて配布しています。

森山：本当はそういう情報の届いていない人たちの掘り起こしこそが課題なのでは？

会長：関連しての質問ですが、先ほどの実利用者の中で、市内の人が3900人ということですが、実は美南ガ丘小学校の地区はなかなかこの街中まで来れないという声がありました。私はよく図書館に来ている方だと思いますが、図書館で村の人に出会ったのは1回だけ。村部の人がここへ来るためには、あるいは、一番最寄りの市の職員の利用はどうか、印象としてどうでしょうか？

大林：やはり少ないです。この周辺の方が利用の中心になっています。

会長：課題ですね。

館長：市役所の職員がどの程度使っているか、という話ですが、毎日来ている人もいます。ただ仕事関係で困ったときに図書館に来るかと言ったら、あまりそういう人は見かけないように感じます。われわれも市の掲示板等で図書館の利用は促していますし、「仕事に使える本があります」というPRはしています。少しずつそういう意識になっていけばいいと思います。

(4) 令和3年度図書館運営計画について (大林) 【資料4】

大林から説明

(5) 図書館運営について 【資料「市立小諸図書館の今後の運営について(答申)」】

館長から資料について説明

会長：今年度は業者選定をする年ということで、市の中でも当然中間的な評価はしていると思いますが、ここにいらっしゃる皆さんにこの2年間、今の運営方法がどうだったかということ、それぞれの経験を踏まえて、ご意見をお願いします。

蓬田：私は実際この業務委託の話が出た時の協議委員で、この答申の話し合いに参加していた一人です。その時に話をしたことと今どうか、ということですが。あの時の話しとすれば、本来は公共サービスであるから、できれば今臨時職員で働いている方を正規職員として、運営がずっと続いていくのが望ましい、というのが協議委員全体の気持ちでした。先ほども言ったようないろいろな事情がある中で、ベストではないけれど、より良い一番ベターな形として管理運営に関しての責任は市が持って、経費削減が目的ではないというところをきちんと市に押しえておいていただく、ということに落ち着きました。どこが委託を受けるのか、ということが一番大事なことではないか、という意見でした。実は12年前に図書館をという時も高校に務めていた関係があつて、その時の事も覚えています。その後職場が小諸市外になってしまったので、その後私は携わることができなかったのですが、その後職員として関わっているみなさんだということをよく知っているのも、そういう形でこの図書館が出来ているということを考えれば、そのまま今の職員の方たちがNPOとして創った団体、本途人舎ができて業務を一部委託されるのは当然だろうと思っていました。本途人舎であれば、小諸図書館が市の真ん中にできたすべての流れを知っていますし、2年間、コロナがあつてなかなかたい

へんなことはあったと思いますが、ここは本当にいろいろな努力をされていますし、実際今すごくうまくいっているというふうに私自身は思っています。先ほどからのみなさんのご意見のように、もう少し広げていくという部分では、足りないところもあるかと思いますが、自分の仕事の中では、非常に頼りにしている図書館です。

田中：運營業務の一部委託となっていますが、傍からみているとほとんど本途人舎でやってらっしゃるようで、「一部」というのは何を表しているのか、知りたいと思います。それと、この2年間と言うことですが、ときどき使わせてもらっている中で、なんにも悪いところがないので、このまま今の方でやってもらったほうがいいと思います。もしさらに契約が何年とかあるならば延長で、というのが私の意見と質問です。

館長：資料をご覧ください。この「一部業務委託」の「一部」の業務の範囲ですが、業務委託をどれだけやるか、というのは市の裁量になっています。例えば、窓口業務だけ民間の業者に委託する、というところが多いのですが、それも「一部委託」です。小諸の場合どうかというと、ほとんどの図書館運營業務を委託しています。運営方針とか、この図書館に求めるもの、と言うのは教育委員会で決めて、この意向に沿った仕事をしてください、という「業務委託」です。ですから、館長は職員、それ以外は全員が本途人舎の職員です。選書等教育委員会と共同で行っています。小諸市の場合は「包括的委託」に近いですが、施設の管理は市でやっています。この2階に交流センターがあり、ここの維持管理、なにか施設が壊れたとかいう場合は全部市の方で、修理等行っています。もうひとつ、指定管理というのがあって、この指定管理と言うのもいろいろな形があります。

会長：あくまで運営の事だから今業務委託を受けている本途人舎に対してという問題ではなく、市に対して、我々は意見を言っていくという形になります。

この2年間の業務委託を見ますと、今の臨時職員の身分が不安定だからという文言がありましたけれども、今すばらしいと言われている職員のみなさんが、1年たてば1歳づつ年を取っていくわけですね。当然 次の世代の人たちを育てていかななくてはならなくて、そういう持続可能性というのは、この2年間の中ではどうだったでしょうか？

大林：当初から視野に入れてはいましたが、結局今のところは、同じメンバーで2年間、3年目もやっているという状況です。どんどん定年を迎えていく年代になっていくので、人材育成は課題です。

会長：先ほどこの実利用者、実際に使っていない人をもっと広げていくという課題が出されましたけれども、それについて委員のみなさん、ご意見等ありますか。

森山：これだけ一生懸命計画してイベントをやっているのですが、このまま続けていっていただければいいのではないかと。人を呼べるイベントをたくさんやって、この人たちがイベントだけでなく来るようになれば利用者が増えるという話ではないでしょうか。これはやはり1回2回ではいけない。お父さんお母さんが図書館に連れて行って、それが芽になる。その人たちが小学校中学校になれば習慣づいて来るようになります。これだ

たくさんやっていて、図書館業務プラスイベントというのは、非常に負担も大きい。今のままの頻度でやっていていただいで気持ちよく帰っていただければ芽は育つのではないかと、ちょっと長い話になりますが、自分一人で来られるようになるまで、時間が掛るかもしれないけれど、いいのではないかと。土曜日に利用させてもらうときにここでイベントをたくさん、この間はオカリナコンサートで「あぁいい雰囲気だな」と思いました。ハードもいい、ソフトと言うのはほぼ本途人舎のみなさんですが、非常に気持ちがいい対応をしてくれています。とても気に入っているので、このまま続けて行っていただければと思っています。

大池：私もこのままお願いしたいと思っています。今子どもたちに聞くと、調べ学習とかで小学校の図書館にないものは、「図書館に行って調べて来よう」という子もいますが、コロナが怖くて図書館に行けないという声も聞かれるので、コロナの間は利用者が少ないのかな、という気もします。引き続きお願いしたいと思っています。

市川：今コロナで非常に閉塞的な感じですけど、この図書館に来るたびにいろいろな展示があったり、ひだまりサロンでイベントがあれば、それに連携していろいろな図書を展示していただくとか、やっていただいている。私も近隣の図書館に行っていますけれども、やはりとても素晴らしいなと思っています。このまま続けて行っていただければと思います。

蓬田：先ほど、若手の育成という話がありましたが、インターンシップとかの受入は？

大林：話があれば必ず受けています。去年一年間は全く職業体験もなかったのですが、今年はいくつかすでにお話をいただいています。積極的に受け入れています。また、夏休み期間にはアルバイトを募集しようと考えています。

蓬田：司書の資格を大学で取る人は多いのですが、働く場所が本当になくて、高校生に聞かれても、資格は無駄にはならないから取っておいで、ただし就職先はほとんどないよ、ぐらいな気持ちで取ってこないとだめ、と言う話をしているので、そういう一つの魅力的な場所として続いてくれているといいなと思っています。

会長：この図書館の目的が「市民とともに成長します」とあったので、図書館が成長するだけではなくて、市民がこの図書館を利用して成長する、ということが大事なんだと思いました。市民が図書館の受け手になっているのではなくて、自分が地域の歴史を掘り起こしていく活動、そういうものにつなげていけるといいなと思います。ここに来なくても展示してある内容がわかる、というように博物館とか美術館とか、活動とか、あるいは小諸市内の企業の歴史がわかるようなものを、図書館に依頼するのではなく、友の会や市民が、地域の資料を作っていくような活動を、サポートしてくれるといいのかな、と。もうひとつ駅だとか中心市街地とともにこの図書館を発展させるという意味があつてここにできたので、図書カードを使ってパスポートみたいになるとか、そんな活動もできたらいいのかな、と思います。私は私の立場で、友の会のメンバーにそういうことを言っていきたい。いずれにしても図書館とともに市民が成長する、そういうところを盛り上げるようにや

っていつていただければいいなと思います。

館長：いろいろ貴重な意見、ありがとうございます。また本途人舎にも、たいへんおほめ頂いて、本当にありがたく思っています。私たちとしましては、会長から「まちづくり」という話もありましたけれど、この位置に図書館を新しく建てた意義ですとか、最初の挨拶で申したとおり、私は3つの館の館長を兼ねています。図書館だけで完結しないで、相乗効果を生むような形を目指して、つながりを広げていきたいと考えています。今本の好きなコアな方が利用の中心にいますが、市長の政策にもあるウェルネスシティとしての居心地の良い第3の居場所となる様な、取り組みをしていきたいと思っています。最後に、次回以降は指定管理のメリットデメリットも含めながらまたご意見をいただきたいと思っています、また次回会長や教育委員会の方と相談しながら協議会を開いていきたいと思っています。事前に資料等お送りします。それを踏まえて、検討をしていただきたいと思っています。

会長：運営方法について、また契約の3年間で終わるというので、新しいことも検討していかなければいけないということのようでもあります。またざっくばらんに、我々の責任でありますので、意見を市に対して申し上げていくという場を作りたいと思いますのでよろしくをお願いします。

5. その他

6. 閉会